

# 学会記事

## 2018年度第3回理事会議事録

日時：2018年12月1日（土）12:00～13:30  
会場：産業技術総合研究所 共用講堂内研修室（つくば市東1-1-1）

出席役員 理事（29名）：天野一男 安藤寿男 石橋 隆 磯崎行雄 ウォリス サイモン 大藤 茂 岡田 誠 狩野彰宏 神谷奈々 北村有迅 亀尾浩司 小松原純子 斎藤 眞 佐々木和彦 沢田 健 杉田律子 竹内 誠 田村嘉之 中澤 努 西 弘嗣 早坂康隆 平田大二 廣木義久 星 博幸 保柳康一 松田博貴 道林克禎 山口耕生 山路 敦 監事（2名）：藤本光一郎 山本正司

（事務局）橋辺・秋葉

欠席役員 理事（21名）：井龍康文 岩井雅夫 緒方信一 折橋裕二 笠間友博 亀田 純 川端清司 小宮 剛 坂口有人 菖蒲幸男 菅沼悠介 高嶋 洋 竹下 徹 田村芳彦 辻森 樹 奈良正和 楡井 久 福富幹男 三田村宗樹 矢島道子 山崎 晴雄

\* 成立要件：理事総数 50名の過半数 26名 本日の出席者 29名で本理事会は成立。

議決：出席者の過半数 15名

\* 開催にあたって、山口理事および廣木理事を書記に指名した。

\* 松田会長より、理事会開催時点におけるつくば特別大会の参加者数（195人）の報告と大会スケジュールによる本理事会の時間短縮について説明があった。

### 報告事項

1. 執行理事会報告（斎藤常務理事）

10. 11月執行理事会議事録をもとに、執行体制の見直しや記念事業の紹介等、議事録概要の説明があった。

前回理事会以降の逝去会員に対し黙祷を捧げた。

2. 理事及び委員会等報告

1) 行事委員会（岡田理事）

2019年度山口大会と2020年度名古屋大会の準備状況が報告され、発表のキャンセルポリシーなど不測の事態への対応について説明があった。

2) 地質学雑誌編集委員会（大藤理事）

編集状況に関する説明があり、新編集委員（栗谷豪会員：北大）が承認された。

3) アイランドアーク編集委員会（田村理事／代理安藤理事）

IFの低下等の報告が行われた。

4) 125周年記念事業実行委員会（佐々木理事）

これまでの事業経過と今後の事業についての報告があった。

5) その他

西 会計担当理事より、2018年北大大会の

会計が適切になされたことが報告された。

### 審議事項

1. 総会の日程について（斎藤常務理事）

JpGU大会の前日、5月25日（土）に北とびあいで開催することが承認された。

2. 名誉会員推薦委員会委員の選出について（斎藤常務理事）

理事会推薦委員として、磯崎理事が選出され、以下の体制が承認された。

委員長：佐々木副会長

職責委員（各支部長）：竹下 徹（北海道）・林 信太郎（東北）・山崎晴雄（関東）・大藤 茂（中部）・三田村宗樹（近畿）・西山賢一（四国）・早坂康隆（西日本）

職階委員（執行理事会推薦）：官公庁 佃 栄吉（産総研）、小中高教員 米澤正弘（千葉県）

会社 向山 栄（国際航業）、大学 伊藤谷 生（明治大学）

3. 2018年度事業経過報告（案）（松田会長）  
山路理事より、法務委員会に関して改善案の提案があり、会長が改善の意向を示した。

4. 2019年度事業計画骨子（案）（松田会長）  
資料中の各項目の概要について説明があった。

5. 事務局体制について（安藤理事）

橋辺事務局長の退職が通知され、秋葉文雄さんの新規採用（2019年1月1日をもって事務局長）が承認された。秋葉さんから挨拶があった。

6. 地質学雑誌のありかたについて（斎藤常務理事）

投稿論文数の減少、印刷の費用と送料等に関する説明がなされた後、出席者より数件の意見があった。今後も継続的に意見を募集する旨の通知があった。

以上

2019年1月30日

理事：議長 狩野彰宏

理事：副議長 杉田律子

代表理事：会長 松田博貴

（理事氏名省略）

## 2018年度第4回執行理事会議事録

期 日：2018年10月20日（土）13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：松田会長 佐々木副会長 斎藤常務理事 安藤 磯崎 大藤 緒方 小宮 坂口 田村 辻森 西 星 廣木

（事務局）橋辺 秋葉

欠席者（委任状提出あり）：平田副会長 ウォリス 岡田 中澤

\* 定足数（12、委任状含む）に対し、出席者

14名、委任状4名、合計18名の出席。

\* 前回議事録を承認

### I 審議事項

1. 執行体制見直しについての方針（佐々木副会長）

1) 主に以下の課題が挙げられる。

・規則と現実の委員会が矛盾している場合がある。

・委員会が組織化されていないものがある。

・委員会の構成が不明なものがある。

・委員会規則が整備されていないものがある。また、委員会によって規則の書き方が異なる。

2) 研究委員会の実態が不明で、規則に定めた更新がされていない。

3) 今後1ヶ月の間に各委員会に問い合わせをして実態を把握する。

4) 3) 項の結果に基づき、12月の理事会で実態を報告し、4月の理事会に見直し案を提案し、5月の総会以降、適切な執行体制に移行させたい。HP、2019年度会員名簿への掲載も考慮する。

2. 「125年学術大会つくば特別大会」開催関連ほか（岡田 代斎藤）

1) 参加費の件

札幌大会発表予定者で事前登録及び当日登録をしていない人の参加費は、当日払いの正規の参加登録費を個別に請求する。札幌の会場に来て参加登録された方からは、当日参加登録費を徴収済み。

発表者ではないが、つくば特別大会にのみ参加する人の参加費：予稿集の残部が100部弱、それを含めた参加費を以下のとおり設定する。正会員・非会員6000円（要旨付）、院生4000円（要旨付）、学部学生・名誉会員・50年会員は無料。

2) プログラムの再編について

特別シンポジウム「前進する北海道地殻構造解明作業—テクトニクス研究の新たな展開へ」についても開催を要請し、2日に開催の予定で調整中。

ポスター発表は1、2日の両日を行う。

3) 産総研の方々の負担にならないよう会場係等のアルバイトを雇う件は、発表件数、プログラムが確定した上で再検討する。

4) 年会報告記事の掲載号について

例年は11月のNews誌に掲載しているが、特別大会と合わせて12月の掲載とする。

5) 札幌で出展された各社に対し、出展の案内をする。ただし、準備可能な机と椅子、ボード、電源の提供のみとする。プログラムが確定した上で早急に案内する。

3. 地質情報展の共催および市民講演会の実施について承認した。（斎藤）

2019年3/29-31 かでの（道民活動センター）を確保し準備を進める。講演会講師も了承済み。